

地球温暖化防止活動

[成果報告書]

東京多摩プロバスクラブ環境問題プロジェクト

活動実績では**14%の削減であったが、地球温暖化防止の意識付けを行い、常にエコ生活を心掛けさえすれば、多額の費用を出費せずに実生活において、現状より**15%の炭酸ガス排出量を削減することは可能であるという結果が得られた。****

○ 活動期間：2年間(平成22年4月～平成24年3月)

○ 活動内容

1. 家庭での使用エネルギー&排出した可燃ごみ等のデータを集計し、これを炭酸ガス排出量に換算し、個人別・一日当たりの数値を把握し、各人に回答した。
2. 同時に以下の資料を全会員に説明し配布した。
 - (1)家庭でできる取り組み 10項目
 - (2)電気の上手な使い方
 - (3)待機電力の知識
 - (4)誰でもできるエコ運転
 - (5)寒さ対策「ウォームビズの極意」
 - (6)家庭でできる節電アクション
3. 算出結果、エネルギー利用効率の高い方々や改善度の高い方々の家庭におけるエコ生活の実態を事例発表の形で3回実施。併せて「今年の夏を如何に乗り切るか」をテーマに座談会を夏直前に開催。



○ データ収集：4月(春)・7月(夏)・10月(秋)・1月(冬) 年4回 計8回

○ 活動参加者：延べ171名

単位:人	4月	7月	10月	1月	計
平成22年度	21	21	22	23	87
平成23年度	23	21	20	20	84

注記:本調査分析は、上記活動参加者の中で合計8回全てにデータの提出を行い、前年度対比で変化が見られる15名を対象としたものである。
次頁以降その分析結果を報告する。

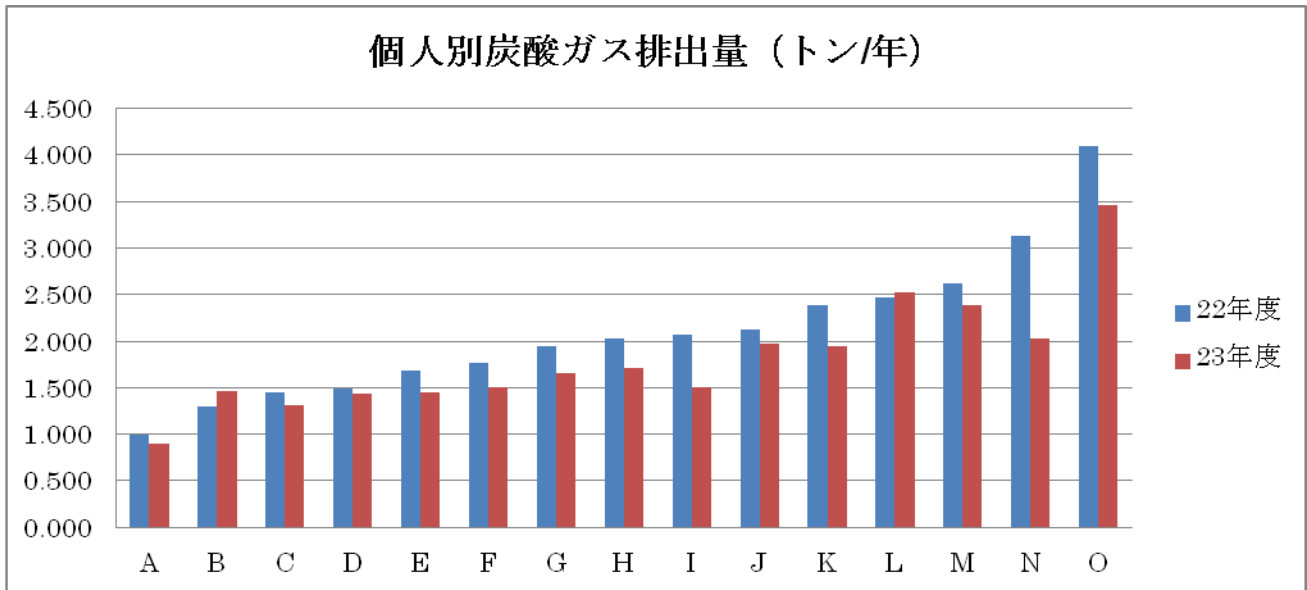


活動内容分析データ

平成 22 年 4 月より家庭で利用するエネルギーの量から、地球温暖化の主因である炭酸ガス排出量を算出し、定量化されたデータを眺めながら、省エネに努め、炭酸ガスの排出削減に取り組んできた。電気・ガス・水道・ガソリン・灯油・可燃ごみの使用量を対象に調査。

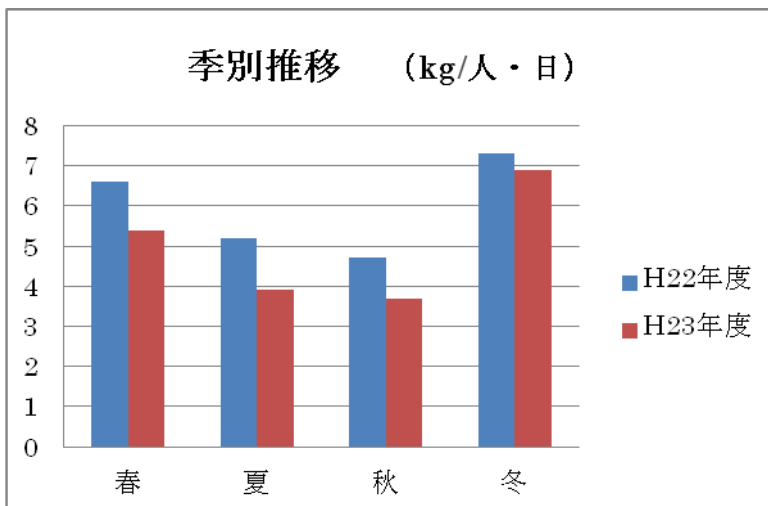
報告：稲田興会員

1. 炭酸ガス排出量の状況



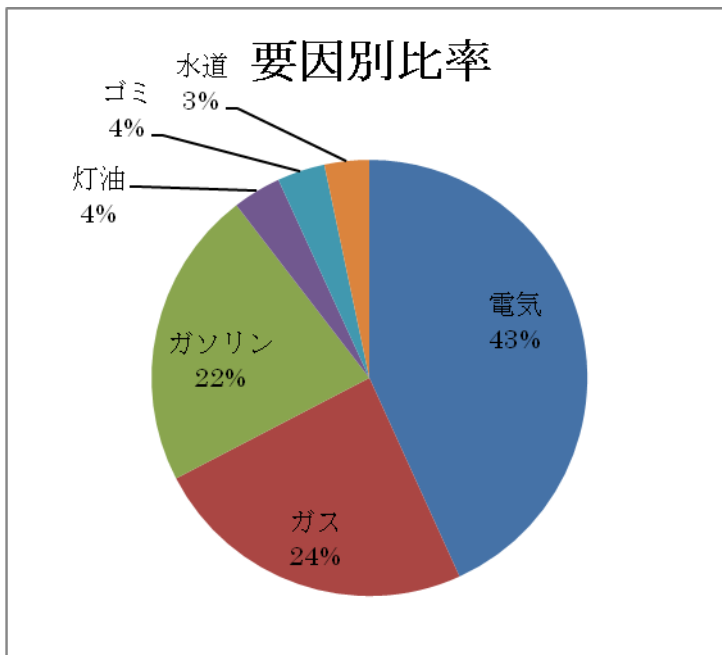
総合計で前年度比 14%の削減を実現。中では 35%もの改善をした方もおれば、逆に 2 名の方は前年度より増加させてしまっていた。これを絶対値で見ると、平成 23 年度実績で、平均 2.1 トン、最少が 0.9トン、最多が 3.5トンを排出しており、その差は 3.9 倍もの開きがある。夫々の生活スタイルにはかなり大きな違いがある。ACEJの 4 名がマンション住まいで他は戸建て住宅。平均で戸建はマンションの 1.47 倍の排出量。家族数による有意差は特に見られなかった。

2. 炭酸ガス排出量の季別推移



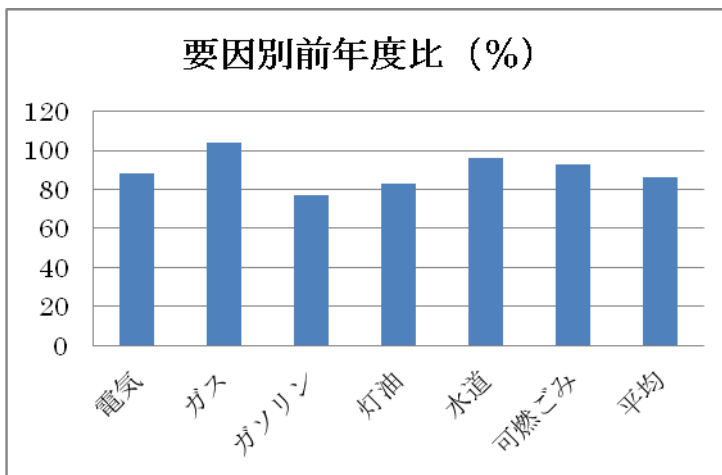
4 月を春、7 月を夏、10 月を秋、1 月を冬として季別に見たものがこのグラフである。夏涼しく、冬寒いという多摩市の地域性が良く表れている。また、暑さには多少の我慢ができるが、寒さには弱いという高齢者の生活が浮き彫りにされてもいる。冬の実績は、夏の実績の 1.5 倍(H22 年)~1.9 倍(H23 年)もの違いがある。

3. 炭酸ガス排出の要因

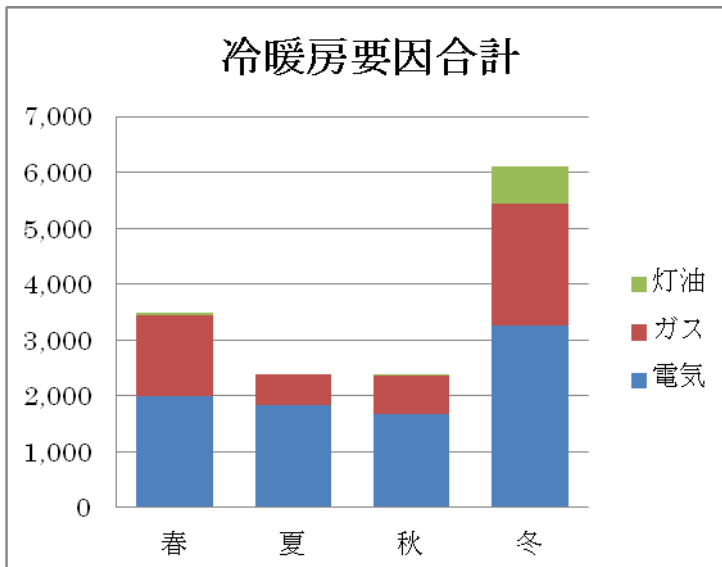


発生要因別にみると、電気の使用に因る割合が最も多く 43%を占め、次に都市ガスとガソリンが続き、これら三つを合わせると9割を占めていることが分かる。従って、省エネ対象も電気を中心に、ガスとガソリンの三大要因の利用効率を上げ、炭酸ガス排出量の削減を図るように、的を絞って取り組むべきである。

4. 要因別分析

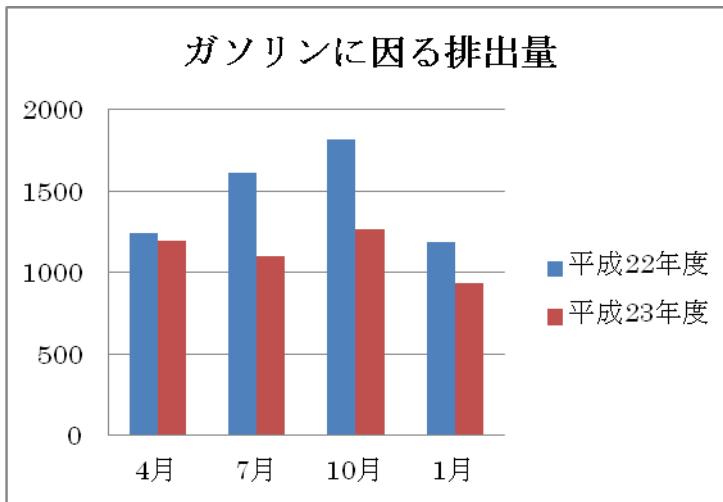


要因別の前年度比は全体平均で 86%であるのに対し、ガスだけは 104%と増加。ガソリンが一番減って 77%。最大要因の電気は 88%であった。灯油は 83%で、可燃ごみと水道は夫々 93%と 96%と微減であった。



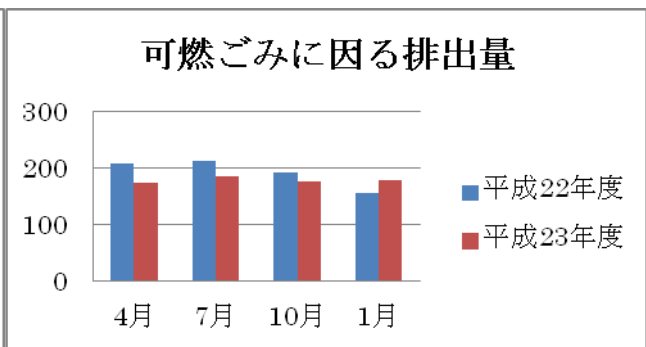
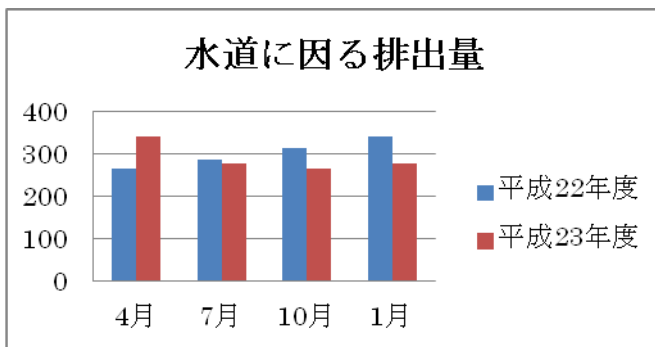
冷暖房のエネルギー源は電気・ガス・灯油とまちまちなので、これらを合算し、H23 年度実績を季別に眺めてみた。

これら3要因だけ取り出すと、冬場のエネルギー消費量が圧倒的に多く、夏場の 2.5 倍にもなる(前年は 2.2 倍)。寒さに弱いという実態が表れている。



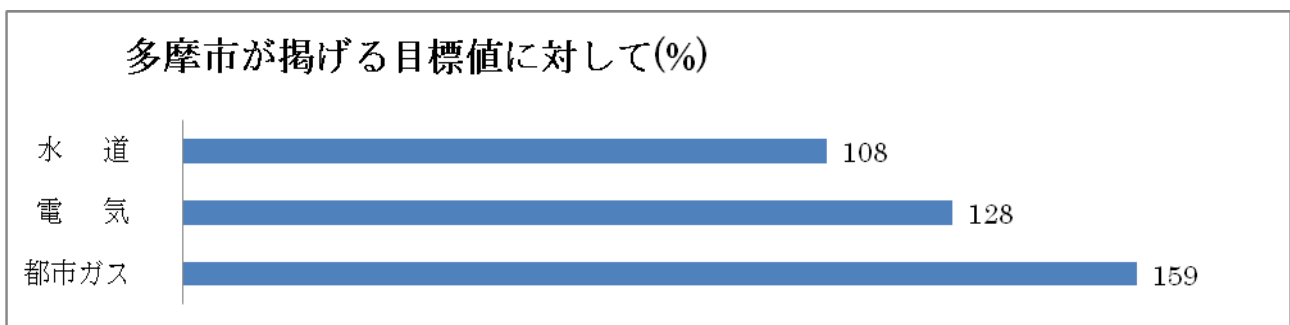
どちらかと言うと、春から秋にかけての消費が多く、冬場に少なくなる傾向にある。

我々の場合、通勤などでの車利用はなくて、基本的には近場(市内の範囲)の買い物や会合等での使用が中心であるが、たまに出掛けるレジャーや帰省など長距離を走った時に大きく変化する。



水道や可燃ごみに因る炭酸ガス排出量は、季別での変化はあまり見られない。対前年度比水道は 96%、可燃ごみは 93%と微減であった。

5. エネルギーの消費レベル



多摩市の平成 22 年度目標との比較である。結果は三項目ともにオーバー(15 名の平均値)しており、まだまだ改善努力が足りない。クリアーしているのは 15 名中水道が 8 名、電気が 7 名、ガスが 4 名で、三項目ともクリアーできているのは一人だけである。

その原因を考えると、我々の場合、全員がリタイアしており、家庭で過ごす時間がほとんどなのが最大原因と考えられるが、他には多摩市の住宅事情と比較して、戸建住宅に住んでいる割合が 7 割強と高いこと、更に高齢者は猛暑や厳寒に弱いことなどを考えると、この目標をクリアーするのは至難の業ではないかと推察される。もしこれらの目標をクリアーするとなれば、多額の費用を出費して、太陽光発電や燃料電池の導入更にはエコカーの購入などの手段を講じなければならないであろう。

以上